

# げん き がく しゃ 「元輝学舎」せんだ通信 4

児童川柳 「離れても きずなはきえない ぜったいに」

児童四字熟語 「生謝 進幸」(生きていることを感謝し前へ進んでいけば きっと幸せになれる)

平成23年 7月 5日

~校長室だより~

夏至が過ぎ、学校のプールには、子どもたちの歓声が響き笑顔がみえる。もうすぐ暑~い夏が訪れる。涼を欲する季節の到来です。

私にとってこの涼となり癒しや潤いともなっているものの一つが、児童川柳であり、児童四字熟語です。5月に校長室前に設置した投稿箱には、自慢の川柳や四字熟語が。そして、月がたつにつれ、そのできばえがあがっているようで、毎週金曜日に投稿箱の扉を開くことは、私にとって「どきどきワクワクする」週末の行事となっています。最近の作品には、こんな傑作が・・・。

6年生の修学旅行川柳もお楽しみに(PTA新聞に掲載:7月発行)

<川柳>

「学校は みんなの未来 つくるところ」

「笑顔はね 楽しくなれる 扉だね」

「だんだんと 積み重ねてく 小さな一歩」

「あいさつは 笑顔をつくる おまじない」

「笑顔はね キラキラかがやく 宝物」

<四字熟語>

「勉強 休遊」(勉強時間はしっかり発表し休憩時間はしっかり遊ぼう)

「友心 光輝」(友だちの心を 光輝かす自分でいたい)

また、正門のロータリーや校舎周りには、児童の安全標語プレートが並ぶ。登下校時等にプレートに目をやり、危機回避の意識や態度を高める子どもたちの姿が。

586人の全児童には、保護者や関係団体の皆様の「命を守る行動規範を培って」との願いから、今回作成・設置されたプレートの意味の重さを感じとり、生活のなかで必ず必ず必ず、行動に移してほしいと思います。



「身の回りの？」を自らの学習テーマとし、その成果をまとめた紙面に感動！

校内を巡回して、ある掲示物に心が踊った。同時に「あ~なるほど、なるほどな」と呟いている自分がそこにいた。

身の回りのできごとや新聞記事から自ら学習テーマを設定し、学び深めた成果を紙面化した児童の家庭学習です。まさに、学び深めたいという「渴き感」から生まれた自主学習である。

その学習テーマには例えばこんなものが・・・

「鳩は、なぜ首をふりながら歩くのかな？」

「あくびをすると、なぜ涙がでるのかな？」

などなど。紙面には、<私の予想>と<回答>の欄があり、それらの内容も筋道が整い説得力がある。

また、心が留まった新聞記事を切り抜き、一口感想や意見を加えた紙面には、大人の視点の枠を超えた面白いコメントがみられる。

子どもたちに対し、新聞や図書など活字にふれる機会を増やし、生活により豊かさをと願いながら、紙面に興じ多くの知をも獲得できたひと時でした。

